慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 東アジアの地域形成と地方統治官：規範の普及と現実 |
| Sub Title | The formation of order and local officials in the regions of East Asia: The explore of normative discourse and the actual situation |
| Author | 山本, 英史(Yamamoto, Eishi)<br>三木, 聰(Miki, Satoshi)<br>武内, 房司(Takeuchi, Fusaji)<br>八尾, 隆生(Yao, Takao)<br>嶋尾, 稔(Shimao, Minoru)<br>渡辺, 美季(Watanabe, Miki)<br>菅谷, 成子(Sugaya, Nariko) |
| Publisher | |
| Publication year | 2010 |
| Jtitle | 科学研究費補助金研究成果報告書 (2009. ) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | 我々の研究では近世東アジア各地の地方統治官が残した記録類を検討することにより、中国の中核部で形成された地方統治の規範が周辺地域・諸国にどう普及し、各々の地域形成の現場にいかに影響を与えたかという問題について比較研究を試みた。その結果、①清代における地方統治の規範的言説と実態②東アジア周辺における規範の受容のあり方③東アジアの地方統治官と在地勢力の関係の偏差などを実証的に明らかにすることができた。 |
| Notes | 研究種目：特定領域研究<br><br>研究期間：2005～2009<br><br>課題番号：17083033<br><br>研究分野：人文社会<br><br>科研費の分科・細目：史学・東洋史 |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_17083033seika |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様式Ｃ-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年６月８日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005～2009
課題番号：17083033
研究課題名（和文）　東アジアの地域形成と地方統治官：規範の普及と現実

研究課題名（英文）　The formation of order and local officials in the regions of East Asia: The explore of normative discourse and the actual situation

研究代表者
山本　英史　（YAMAMOTO EISHI）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：90127796

研究成果の概要（和文）：
我々の研究では近世東アジア各地の地方統治官が残した記録類を検討することにより、中国の中核部で形成された地方統治の規範が周辺地域・諸国にどう普及し、各々の地域形成の現場にいかに影響を与えたかという問題について比較研究を試みた。その結果、①清代における地方統治の規範的言説と実態②東アジア周辺における規範の受容のあり方③東アジアの地方統治官と在地勢力の関係の偏差などを実証的に明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：
Our research sets out to explore the norms of local governance which were formed in the central China, through the investigation of the records left by local officials in various regions and nations in East Asia in modern times. The comparative approach aims to answer the question how those norms were diffused in the peripheral areas of China, and how they gave various influences upon the formation of each region. As consequences, we successfully demonstrated three following points: Firstly the normative discourse and actual situation of local governance under the Qing China; secondly the perception of those norms in peripheral East Asia; thirdly the relations or gaps in power between the local officials and local potentates in East Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２００５年度 | 5,700,000 | 0 | 5,700,000 |
| ２００６年度 | 5,600,000 | 0 | 5,600,000 |
| ２００７年度 | 5,600,000 | 0 | 5,600,000 |
| ２００８年度 | 5,600,000 | 0 | 5,600,000 |
| ２００９年度 | 5,200,000 | 0 | 5,200,000 |
| 総　計 | 27,700,000 | 0 | 27,700,000 |

研究分野：人文社会
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：寧波、地方統治、ベトナム、海域、秩序、中核と周辺、規範と現実

## １．研究開始当初の背景

本研究は親研究の「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」の一環として、その具体的な研究目的の一つである「海域研究」を担うべく設けられた。「海域研究」においては従来地中海世界を舞台に構築された理論がその拠り所とされてきたが、課題としてそれを東アジア海域世界において再検討する必要があり、本研究はその一端を引き受けることになった。

## ２．研究の目的

この研究では、東アジアの中核で形成された地方統治の規範が、東アジアの周辺各地にどのように普及し、それぞれの地域形成の現場においていかに実現されたか（されなかったか）を問うため、各地の地方統治官の残した記録、地方政治に関わる文書、地方統治のマニュアル類を検討することを研究目的とした。そして具体的には中核部の中国浙江・寧波の清代統治官の事例を軸にして中華帝国の周辺の事例、および中華帝国の外側のベトナム・琉球、フィリピンの事例を取り上げて比較・検討することを共通の課題として設定した。

## ３．研究の方法

具体的な活動としては、主要な成果目標である研究論文集の作成に向けた定期的な研究報告会を開催するほか、①東アジア海域世界の中核部に位置する寧波の清代における地方統治の規範的言説と実態、②東アジア周辺における規範の受容のあり方、および規範と現実との関係、③東アジアの地方統治官と在地勢力の関係の偏差、などについて実証的・具体的に明らかにすることを念頭に置いた上で班全体による海外実地調査および各個人による海外資料収集調査を続けてきたことを挙げる。

## ４．研究成果

最大の成果は 2010 年内に『近世の海域世界と秩序形成』（仮題）と題した研究論文集を刊行・公開することである。これは親研究の中心事業計画の一つである『東アジア海域叢書』の一翼を担い、その最初に上梓するもので、研究分担者・連携者の他、この間に我々が開催した国際シンポジウムの参加者である中国大陸・台湾・フランスなどの海外の研究者たちからの論考をも掲載することができ、その意味でも国際的な評価が期待できる研究成果であると思われる。

本研究ではこの間、ベトナム、浙江、福建、沖縄の地方統治の遺跡や資料を調査することで、それぞれのあり方を体験的に理解することを可能にし、それぞれに研究に具体性を与えることになった。

さらにこうした活動を踏まえたうえで各メンバーはみずからの責任において以下のように研究論文を多数生み出し、多くの国際学会で有益な研究報告を行っておのおのそれぞれの分野での国際学術交流に活躍した。

## ５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 26 件）

1.嶋尾稔「阮朝硃本と『大南寔録』」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』（無査読）41 号、2010 年、205‐224 頁

2.八尾隆生「ベトナム陶磁器とその故郷」『地域アカデミー2009』（広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座公開講座報告書）（無査読）、2010 年、53 -63 頁
3.嶋尾稔「『寿梅家礼』に関する基礎的考察（四）」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』（無査読）40 号、2009 年、247 -257 頁
4.渡辺美季「琉球侵攻と日明関係」『東洋史研究』(有査読)68 巻 3 号、2009 年、94 - 127 頁
5.渡辺美季「琉球から見た清朝　―明清交替、三藩の乱、そして太平天国の乱―」『別冊環』（無査読）16 号、2009 年、254 -261 頁
6.山本英史「清康熙の孤本公牘三種について」『史学』（有査読）77 巻 4 号、2009 年、13 -25 頁
7.渡辺美季「近世琉球の異国船監視体制」『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号（無査読）、2009 年、151 -156 頁
8.嶋尾稔「『寿梅家礼』に関する基礎的考察（三）」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』（無査読）39 号、2008 年、215 -231 頁
9.渡辺美季「久米村士族という生き方－毛有増の生涯－」『第 11 回琉中歴史関係国際学術会議論文集』（有査読）2008 年、49 -71 頁
10.八尾隆生「ヴェトナム紅河デルタ・ニンビン省瑰池社の開拓史－国家と地方官、民との交渉再考－」『東洋史研究』（有査読）66 巻 4 号、2008 年、 32 -63 頁
11.嶋尾稔「ベトナムの伝統的私塾に関する研究のための予備的報告」『東アジア文化交渉研究』（有査読）別冊 2 号、2008 年、53 -66 頁
12.菅谷成子「スペイン領フィリピンにおける中国人統治とカトリシズム–近世スペインの『他者』認識の周辺–」『多文化社会研究会研究報告』（無査読）5 号、2008 年、31 -40 頁
13.三木聰「清代前期の福建汀州府社会と図頼事件－王廷掄『臨汀考言』の世界－」『史朋』（有査読）40 号、2007 年、40 -58 頁
14.渡辺美季「琉球人か倭人か－十六世紀末から十七世紀初の中国東南沿海における「琉球人」像－」『史学雑誌』（有査読）116 編 10 号、2007 年、 1 -36 頁
15.山本英史「官箴より見た地方官の民衆認識－明清時代を中心として－」『大阪市立大学東洋史論叢』別冊特集号（無査読）、2007 年、173 – 186 頁
16.八尾隆生「ヴェトナム黎朝前期昇龍城研究初稿」『広島東洋史学報』（有査読）12、2007 年、54 -75 頁
17.八尾隆生「近世ベトナムの港町ホイアン」『地域アカデミー2006』（広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座公開講座報告書）（無査読）、2007 年、19 -36 頁
18.嶋尾稔「『寿梅家礼』に関する基礎的考察（二）」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』（無査読）38 号、2007 年、123 -143 頁
19.嶋尾稔「『寿梅家礼』に関する基礎的考察」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』（無査読）37 号、2006 年、141 -158 頁
20.YAO Takao,“Mạt cuộc tranh cãi trong làng Bách Cốc cuối đời Lê”（黎末百穀社における一つの争い）, *Thông tin Bách Cốc số đặc biệt*（『百穀通信』特別号）（有査読）, 2006.47 -62
21.渡辺美季「竹森道悦と地図奉納－『世界図』・『肥前長崎図』の紹介を中心に－」『九州史学』（有査読）146 号、2006 年、1 -47 頁
22.渡辺美季「鳥原宗安の明人送還－徳川家康による対明「初」交渉の実態－」『ヒストリア』（有査読）202 号、2006 年、138 -165 頁
23.武内房司「清代「封禁」論再考～西南中国の視点から」『白山史学』（有査読）42 号、2006 年、1 -20 頁
24.八尾隆生「ヴェトナム前期黎朝の滅亡と清化集団の再編」『史学研究』（有査読）248 号、2006 年、 1 -26 頁
25.八尾隆生「碑文に見るヴェトナム黎朝初期の政権抗争」『アジア遊学』(無査読)91 号、2006 年、 150 -157 頁
26.八尾隆生「黎朝開国功臣の土地所有と農業開拓」『広島東洋史学報』（有査読）10 号、2005 年、1 -28 頁

〔学会発表〕（計 28 件）
1.三木聰「関於伝統中国判牘資料目録的編撰」（講演）第 33 回厦門大学人文学院人文国際講壇、2010 年 3 月 19 日、厦門・厦門大学
2.三木聰「明末福建海域的倭寇・海賊問題 ―― 以『閩讞』与『莆陽讞牘』的分析為中心 ――」（講演）第 385 回厦門大学南強学術講座、2010 年 3 月 12 日、厦門・厦門大学
3.渡辺美季「科挙与琉球問題」第 12 回琉中歴史関係学術会議 2009 年 11 月 22 日、青島・中国海洋大学
4.武内房司「箇舊錫業與世界～兼論近代雲南與法属越南之間的経済交流」「清代地理国際学術研討会」2009 年 11 月 14 日、上海・復旦大学
5.嶋尾稔「ベトナムにおける朱子家礼の受容と展開」 国際シンポジウム「朱子家礼と東アジアの文化交渉」2009 年 11 月 3 日、ソウル・国学振興院
6.嶋尾稔「ベトナムにおける家礼の受容と展開」 広島史学研究会大会、2009 年 10 月 24 日、広島・広島大学
7.菅谷成子「フィリピン国立文書館蔵「マニラ公正証書原簿」について」中国四国歴史学地理学協会大会、2009 年 7 月 5 日、松山・愛媛大学
8.山本英史「近代蘇州における基層社会の管理と郷村役」東アジア研究所第 24 回学術大会、2009 年 6 月 27 日、東京・慶應義塾大学

9.山本英史「江南基層社会から見た土地改革前史・序説－旧松江府の図正と帰戸併冊－」三田史学会大会東洋史部会、2009 年 6 月 27 日、東京・慶應義塾大学
10.山本英史「中国的『当為』与『実態』－以《清代中国的地域支配》為論証」東呉大学人文社会学院歴史学系講演、2009 年 5 月 18 日、台北・東呉大学
11.山本英史「公牘中的『良民』与『奸民』－以清代康熙朝的事例中心」中国明代研究学会、2009 年 5 月 16 日、台北・国立台湾師範大学
12.SUGAYA Nariko.“Spain’s Chinese Policy in the Early Modern Philippines: ‘Spanish Subjects’ or the Colony’s ‘Other.” Workshop on Chinese Immigration to the Philippines, Japanese and Korean Philosophies, and Source Material for Asian Studies in Japan and the Philippines. 2009 年 3 月 11 日、 ケソンシティ・マニラ大学.
13.YAO Takao, “S▪ thảo Nghiên cứu thành Thăng Long thời Lê s▪ (黎初昇龍城研究初稿), H▪i th▫o Qu▫c t▪ Vi▫t Nam h▫c III（第３回国際ヴェトナム学学会）2008 年 12 月 5 日、ハノイ・ミディン国際会議場
14.武内房司「中国近代の民間宗教結社とキリスト教～対立の構図を越えて」史学会シンポジウム「信仰における他者～異宗教・異宗派の受容と排除の比較史論」、2008 年 11 月 8 日、東京・東京大学
15.武内房司「ヴェトナム国民党と雲南～滇越鉄路と越境するナショナリズム」東洋史研究会大会、2008 年 11 月 3 日、京都・京都大学
16.武内房司「“開発”与“封禁”～道光時期清朝対西南地区民族政策的浅析」「明清以来雲貴高原的環境与社会国際学術討論会」2008 年 8 月 28 日－30 日、上海・復旦大学
17.SUGAYA Nariko.“Colonial Life in Spanish Manila in the Late Eighteenth Century and the Early Nineteenth Centuries.” The 8th International Conference on Philippine Studies (8th ICOPHIL). 2008 年 7 月 23 日、ケソンシティ・フィリピン社会科学センター
18.WATANABE Miki, “The Border of Japan” for Chinese Arrivals in Nagasaki,Satsuma and Ryukyu (International Conference 2007: Canton and Nagasaki compared, 1730-1830) 2007 年 12 月 2－7 日、広州・中山大学
19.渡辺美季「垣花親方の夢－久米村士族という生き方－」第 11 回琉中歴史関係学術会議、2007 年 11 月 23 日、那覇・琉球大学
20.WATANABE Miki , "An International Maritime Trader, Torihara Soan: The Agent for Tokugawa Ieyasu’s First Negotiations with Ming China, 1600"（International Conference: The East Asian Mediterranean - Maritime Crossroads of Culture, Commerce, and Human Migration）, 2007 年 11 月 2-3 日、ミュンヘン・ミュンヘン大学
21.武内房司「近代先天道在越南的伝播～対越南漢喃研究院所蔵民間宗教経典的浅析」香港・中文大学道教文化研究中心主辦「先天道歴史與現況研討会」2007 年 9 月 22 日、香港・中文大学
22.山本英史「官箴より見た地方官の民衆認識－明清時代を中心として－」文献資料研究部門主催国際シンポジウム「政治・制度資料における文献資料学の新たな可能性」2007 年 1 月 13 日、大阪・大阪市立大学
23.山本英史「『衙蠹』のいみするもの－清初の地方統治と胥役－」東洋史研究会大会、2006 年 11 月 3 日、京都・京都大学
24.WATANABE Miki：Shifting Representations of Ryukyuans between Early Modern China and Japan (The 5th International Conference on Okinawan Studies) 2006 年 9 月 15 日、ヴェニス・ヴェニス大学
25.YAMAMOTO Eishi,“The District Magistrate at New Post—Diverse Aspects of Chinese Society of the Seventeenth Century observed from *Guanzhen* Official Handbooks”, 東京大学東洋文化研究所国際シンポジウム、2006 年 2 月、東京・東京大学
26.武内房司「近代中国と天主教本土化運動」愛知大学・南開大学共催《現代中国学方法論及其文化視角》国際学術討論会, 2005 年 12 月 3 -4 日、天津・南開大学
27.SHIMAO Minoru,“Nhìn l▪i Nghiên c▫u Vi▫t Nam t▪i Nh▫t B▫n（日本におけるベトナム研究を振り返る）.” H▪i th▫o k▪ ni▫m 100 năm Phong trào Đông du（東遊運動百周年記念シンポジウム） 2005 年 11 月 21 日、ハノイ・ハノイ大学
28.山本英史「赴任する知県－官箴に見る 17 世紀中国地方社会の諸相－」第 19 回明清史夏合宿の会、2005 年 8 月 6 日、尼崎

〔図書〕（計 29 件）
1. 武内房司等（全 10 名）編『越境する近代東アジアの民衆宗教～中国・台湾・香港・ベトナムそして日本』明石書店、2010 年（予定）、384 頁
2.山本英史編著『アジアの文人の見た民衆とその文化』慶應義塾大学出版会、2010 年、265 頁
3.山本英史「公牘の中の“良き民”と“悪しき民”－清代康熙朝の事例を中心にして－」山本英史編『アジアの文人が見た民衆とその

文化』慶應義塾大学出版会、2010 年、67‐100 頁
4.嶋尾稔「ベトナムの家礼と民間文化」 山本英史編『アジアの文人が見た民衆とその文化』慶應義塾大学出版会、2010 年、101-143 頁
5.三木聰、山本英史、高橋芳郎編『伝統中国判牘史料目録』汲古書院、2010 年、213 頁
6.武内房司「一九世紀前半期，雲南南部地域における漢族移住の展開と山地民社会の変容」塚田誠之編『中国国境地域の移動と交流～近現代中国の南と北』有志社、2010 年、117-143 頁
7.渡辺美季「近世琉球的王権与基督教」徐洪興・小島毅・陶徳民・呉震編『東亜的王権與政治思想－儒学文化研究的回顧與展望－』上海・復旦大学出版社、2009 年、181～189 頁
8.八尾隆生『黎初ヴェトナムの政治と社会』広島大学出版会、2009 年、493 頁
9.三木聰「福建巡撫許孚遠之謀略－囲繞於豊臣秀吉“征明”――」陳春声・陳東有編『楊国楨教授治史五十年紀念文集』南昌・江西教育出版社、2009 年、444-470 頁
10.WATANABE Miki,,“The Border of Japan”for Chinese Arrivals in Nagasaki,Satsuma and Ryukyu Intercontinenta No. 26: Evert Groenendijk, Cynthia Viallé & Leonard Blissé(ed.), *Canton and Nagasaki Compared 1730-1830.* Universiteit Leiden, 2009,57-63
11.武内房司「中国のキリスト教」高柳俊一・松本宣郎編『キリスト教の歴史 2』山川出版社、2009 年、210－227 頁
12.山本英史「清代の公牘とその利用」大島立子編『前近代中国の法と社会－成果と課題』財団法人東洋文庫、2009 年、53-70 頁
13.SHIMAO Minoru,”The Sinification of the Vietnamese Village: Family Genealogy and Ancestral Hall.”ISHII Yoneo ed. *The Changing Self Image of Southeast Asian Society during the 19th and 20th Centuries*.Tokyo: The Toyo Bunko. 2009,54-83.
14.YAO Takao,“Bia h□p và tình hình chính tr□ th□i Lê s□”（箱碑文と黎朝前期の政治情勢）, Trong: Vi□n Vi□t Nam h□c và Khoa h□c Phát tri□n (so□n), *20 năm Vi□t nam h□c theo Đ□nh h□□ng Liên ngành*, Hà N□i: Nxb. Th□ Gi□i（ハノイ国家大学ヴェトナム学・開発科学院（編）『学際的方向に進むヴェトナム学の 20 年』ハノイ：世界出版社）, 2008, 342-355
15.菅谷成子「『マニラ公正証書原簿』にみる一八世紀末葉のスペイン領フィリピン社会」愛媛大学「資料学」研究会編『歴史と文学の資料を読む』創風社出版、2008 年、140-156 頁
16.武内房司「ヴァンサン・レッブと天主教本土化運動」馬場毅・張琢編『改革・変革と中国文化、社会、民族』日本評論社、2008 年、47-61 頁
17.武内房司「中国民衆宗教の伝播とヴェトナム化～漢喃研究院所蔵諸経巻簡介」板垣明美編『ヴェトナム～変化する医療と儀礼』春風社、2008 年、179-207 頁
18.武内房司「清末雲南タイ系土司の近代化ヴィジョン～刀安仁とその周辺」塚田誠之編『民族表象のポリティクス～中国南部における人類学・歴史学的研究』風響社、2008 年、189-224 頁
19.渡辺美季「近世琉球の社会と身分－家譜という特権－」大西秀之・加藤雄三・佐々木史郎編『東アジア内海世界の交流史－周縁地域における社会制度の形成－』人文書院、2008 年、131-150 頁
20.杉山清彦・渡辺美季「近世後期東アジアの通交管理と国際秩序」桃木至朗ほか編『海域アジア史研究入門』岩波書店、2008 年、116-122 頁
21.山本英史「衙蠹のいみするもの－清初の地方統治と胥役－」細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平～フィールドと文書を追って』山川出版社、2008 年、140-162 頁
22.武内房司「清代貴州のカトリックと民間宗教結社」細谷良夫編『清朝史研究の新たなる地平～フィールドと文書を追って』山川出版社、2008 年、213-238 頁
23.WATANABE Miki,“An International Maritime Trader, Torihara Soan: The Agent for Tokugawa Ieyasu’s First Negotiations with Ming China, 1600"
East Asian Maritime History, vol. 6: Angela Schottenhammer (ed.), *The East Asian Mediterranean - Crossroads of Knowledge, Commerce, and Human Migration*. Wiesbaden, Dec.31, 2008.235-242
24.山本英史「中国訴訟文書の世界」佐藤道生編『古文書の諸相』慶應義塾大学文学部、2008 年、85－97 頁
25.山本英史「清末民国期における郷村役の実態と地方文献－蘇州府を中心とする史料紹介－」太田出・佐藤仁史編『太湖流域社会の歴史学的研究－地方文献と現地調査からのアプローチ』汲古書院、2007 年、5－34 頁
26.山本英史『清代中国の地域支配』慶應義塾大学出版会、2007 年、500 頁
27.渡辺美季「近世琉球と「日本の国境」－唐人証文の分析－」菊池勇夫・真栄平房昭編『近世地域論フォーラムⅠ　列島史の南と北』吉川弘文館、2006 年、81-109 頁
28.武内房司「20 世紀初，ヴェトナム西北タイ族社会の変容と抗仏運動」塚田誠之編『中国・東南アジア大陸部の国境地域における諸民族文化の動態』2006 年、285-298 頁

29.山本英史「健訟の認識と実態－清初の江西吉安府の場合－」大島立子編『前近代中国の法と社会』東洋文庫、2006年、170-212頁

〔その他〕
1.活動内容の概要については「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成－寧波を焦点とする学際的創生」のホームページに掲載（http;//www.l.u-tokyo.ac.jp/maritime/research_outline）参照。

６．研究組織
(1)研究代表者
山本　英史（YAMAMOTO　EISHI）
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：90127796

(2)研究分担者
三木　聰（MIKI　SATOSHI）
北海道大学大学院・文学研究科・教授
研究者番号：90165986

武内　房司（TAKEUCHI FUSAJI）
学習院大学・文学部・教授
科研番号：30179618

八尾　隆生（YAO　TAKAO）
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50212270

嶋尾　稔（SHIMAO　MINORU）
慶應義塾大学・言語文化研究所・教授
研究者番号：90255589

(3)連携研究者
渡辺　美季（WATANABE　MIKI）
東京大学大学院・人文社会系研究科・助教
研究者番号：60548642

菅谷　成子（SUGAYA NARIKO）
愛媛大学・法文学部・教授
研究者番号：90292126